Dr.ジチ
全国リレーエッセー
群馬県

介護・福祉・医療 連携目指す

坂本（さかもと）　直美（なおみ）　26期生、2003年卒

七月、わが家の台所は新鮮なキャベツであふれかえります。私の勤務する長野原は浅間山のふもとに位置するキャベツの産地です。この時期、患者さんはキャベツの入った袋をぶらさげ、診療所にやってきます。

六十代なんて壮年期。ほとんどが七十歳を超えていますが、黒く日焼けした顔はとても若々しく、私の方が元気をもらいます。しかしその多くがひとり暮らしや老夫婦のみでの生活で、今後の生活に不安を抱えているのも事実です。

患者宅で認識

先日、患者さんの自宅を訪問する機会がありました。体調の悪い患者さんの往診に行くことはありますが、今回は診察が目的ではありません。介護福祉事業の一環に、担当のケアマネジャーやホームヘルパーをはじめ、さまざまな職種が集まり問題点を議論するサービス提供者会議というものがあります。その会議を、患者さんの自宅で開くことになったのです。

その患者さんはひとり暮らしのおじいさんで半身まひがあり、よく転倒しては診療所を受診していました。リハビリも受けているし、歩行時にはつえをつくよう指導しているし…。私はいつも診察の最後に、「今度は転ばないよう気を付けてくださいね」と声を掛けることぐらいしかできませんでした。

ところが自宅を訪問してみて、気付いたことがありました。段差のきつい玄関のあがり口に、生活動線上に敷いてあるこたつ布団や座布団。話を聞けば、やはりそういった場所で転倒することが多いとのことでした。

ちょっとしたことですが、診察室では気付けないことであり、また大切なことです。現実には医師が患者宅を訪問するのはなかなか困難だと思いますが、日ごろから家族や介護福祉関係者と密に連絡を取り、情報交換することでより充実した医療が行えると実感しました。

地域全体に目を

「病気を診ずに患者を診よ」。よく言われることであり、いつも心掛けていることです。しかし地域医療に携わるようになり、患者を診るだけでは不十分だと思うようになりました。特に高齢患者はどうしても周囲のサポートが必要なのです。患者だけでなく、その家族、さらにはその地域全体に目を向けなければ良い医療は提供できないと感じています。

今後、さらに少子高齢化が進み、不安を抱える高齢者もますます増加すると思われます。「地域」が一体となって、介護・福祉・医療を連携させ、みんなが安心して暮らせる地域になることを強く願い、また協力していきたいと思います。

（次回予定は大阪府）

秋には山の鮮やかな紅葉に包まれる診療所

長野原町へき地診療所

【私の勤務地】 長野原は群馬県の北西山間部に位置する町。春には新緑、秋には紅葉が映える吾妻渓谷は絶景である。冬は豪雪地帯となる一方、夏は涼しく、避暑地として有名な北軽井沢もある。近くには草津温泉やスキー場も多くあり、たくさんの行楽客が訪れる。